

1 事業目的	自然と歴史・文化の保全再生活動の継続
2 事業内容	<p>自然環境の再生・生物多様性の保全・過疎化対策に取り組む。</p> <p>(1) 水路の改良</p> <p>(2) 内田地域の森林・桜川・桜の植樹場所・史跡等の保全整備</p> <p>(3) 地域の案内マップ作成 ・案内板や道標を立てる</p> <p>(4) 過疎化対策</p> <p>(5) 台風被害・豪雨災害対策(第3次)【災害復興活動支援助成】助成事業</p>
3 事業成果	<p>◎保全再生活動として今年度は特に4つの目標を掲げ重点的に取り組んだ。先の台風につき大雨などの被害により大木の倒壊や大規模な土砂崩れなど、会員では処理が困難な作業を伐採業者に委託したことで、その後の作業能率が上がった。今年度は更に耕作放棄田の葎狩りや雑木処理などを実施30アール追加した。自然災害を乗り越え大木谷津田の自然を取り戻し継続して谷津田再生に取り組んでいることが、地元町会や市原市行政からの支援につながったと思う。</p> <p>生物多様性に関しては自然災害により生存が危ぶまれていた絶滅危惧種である東京サンショウウオやアカハライモリなどの調査を続けていた会員のアドバイスを聞きながら環境の改善を図るべく準備を始めている。</p> <p>(1) 谷津田を再生するうえで長年の水害やイノシシによる水路の崩壊が大きな課題であった。3年前に町会長と相談の上、水路改良の要望を出していたところ今回 復旧工事の許可が出たとのことで、関係者による立会いのもと測量や境界立ち合いが行われた。一部地権者や近隣の耕作者から厳しい難題を突き付けられ谷津田の保全活動の継続も一時は中止せざるを得ないかと思った。しかし、市行政や地域町会役員や隣接耕作者などの強い後押しにより引き続き谷津田の再生に挑戦することとした。</p> <p>今後は耕作者がいない場所でも昔ながらの掟ではなく、より合法的な水路の使い方などを話し合う必要があると思う。</p> <p>(2) 桜川周辺の「桜の名所づくり」は、植樹した苗木が枯れたりイノシシ被害を受けたところの草刈り・竹刈を実施し補植や増植をおこなった。それでも今年度は枯れる問題が起きた。周りからは休耕田の活用の不備によるものだと指摘された。</p> <p>今後専門家とさらなる検討を重ね、苗木の根張りをよくするための土壌改善と水捌け水路工事対策などを実施したい。</p> <p>(3) コロナ禍の自粛要請の影響もありイベントが開けず本格的には取り組めなかったが自主的に山道の整備や看板の取り付けをしたグループがあり少しずつ進んでいる。「内田の森」の遊歩道の整備とアプリ付きのマップ作成で県外からの来訪者が急増した。</p> <p>今後も取り組みたい。</p> <p>(4) 谷津田の再生は、地域を守る。「農業は地域を守る」と信じて活動を続ける。</p> <p>地元の歴史文化の継承として、行燈祭りや諏訪神社の祭り「奉納相撲祭」は、地域に残る歴史・文化遺産として残すためには知恵を絞らないと過疎化に歯止めがかからない。地元の内田小学校が閉校となりこの1年で地域活動の多くが減少した。地域の高齢化と自然の荒廃は今真剣に考えないと廃村につながるのが見えてくる。地域外からの人と知恵を取り入れた活動が内田の自然と歴史文化の継承が地域を守る課題解決になると感じる。</p>

とどまることのない災害やコロナ感染症などで中止せざるを得なかった年中事業活動を再開
継続していく。

◎今年度実施できた行事は次の通り(米沢の森を含む)

・【山桜と菜の花祭り】

花立野広場周辺の菜の花畑の整備拡張したことで、山桜と菜の花の開花は

市原で最高と言われ写真家やテレビ局のドローン撮影などが実施された。

市原市からの依頼で連日開放したこととアマチュア無線家の活用により『御十八夜』の頂上
が多くの来訪者で賑わった。

・【谷津田の米づくり体験】・【ダイヤモンド富士の撮影会・観る会】・【里山一日体験活動】(チェ
ンソーの資格取得の実技の場として活用)・【除伐した原木を活用した椎茸づくり】・【初日を観
る会】・【かぎろひを観る会】

・市原市の消防署合同の依頼で米沢の森を山岳救助訓練場として活用

・ボーイスカウトの野外活動の場として利用

◎まとめ

*耕作放棄地の活用について

大木谷津田は古地図にも早くから記されている農作地であった。

現在は、いろいろな事情で耕作放棄地として長い年月を過ぎてしまった地域を、再び活性化
させようと取り組んできた。害獣・自然災害による被害を克服しながら再生利活用させること
を目標にしている。

しかし、地域外の人や行政の力が導入され再生されると地元の方々に複雑な思いが呼び起
こされていることを感じる。誹謗中傷や昔ながらの慣習などのわずかなすれ違いによってさ
まざまな課題が発生してきた。

それらの課題をどのように解決していくか、取り組み方を行政や地域住民、専門家を交えて
話し合いをしていきたいと思っている。

谷津田を守りたいという願いを皆さんと共有していきたい。

(5) 年度内に募集された助成事業

「2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金」(第3次)【災害復興活動支援助成】助成事業
に参加 2021年7月～10月31日まで実施した。

(実施地域) 米沢の森内・花立野周辺。

台風災害により風倒木や高所枝折れ樹木等が発生し、危険であると判断したので立ち入りを
制限していた。7月に入っても雨天続きであったので、作業は8日から取り掛かった。まず、
人々が安全に立ち入ることが出来る状態を目ざした。

はじめに、土砂崩れや倒木などで危険な状況にあった個所の整備のため、重機類を使つての
専門家による取り除きや土地整備を実行した。倒木や枝折れは数多く、台風の破壊力をいま
さらながら感じさせられた。太い倒木を取り除いたり、伐根するためには重機・ユンボトラクタ
一等業者に依頼せざるを得なかった。

保全整備と並行して、草刈りや遊歩道の整備をし、目標である花立野のイベント広場及び花
畑の復旧・耕耘を実施した。取り除いた倒木や根の焼却処理や周囲の整理と花の種まきを完
了することが出来た。例年の花畑に比べると春先の花は少し残念なものであったが、来年月
の種を収穫した後他の花種(コスモスと蕎麦)を撒き遅まきながら他の季節の花畑を楽しむこ
とが出来た。

山桜の周囲も折れた枝や倒木を整理できたので、来年の開花が楽しみである。

<p>千葉県環境再生に貢献できたか</p>	<p>◎森林・谷津田・観光名所づくりは地域の再生活活性化に大きな成果となっている。地域の活性化に向けた活動を継続するための施策も検討が重要となってきた。多くのことを実施することで貢献度が分散するが自然環境を守ることに必要と考える。</p> <p>◎整備後の害獣対策は、見回り活動に多くの時間がかかることから周辺地域の人達や行政と連携しながら強化している。特にイノシシによる被害が拡大しているなか電柵と併用したフェンスの設置をしたが、イノシシも学習するので効果が低下している。</p> <p>◎自然災害の復旧後は、台風などの激甚災害に備えた水路の整備や土留め工事は谷津田の保守管理の活動として欠かせないと考え行政や地区町会の理解と支援が受けられるように努力している。</p> <p>◎地域の耕作放棄地の藪化の整備や農道の保守管理に貢献することも活動に対する認知度をあげる手立てと思っている。</p>
<p>イ 一般県民の参加、支援が得られる活動となるように事業の周知ができたか</p>	<p>◎活動の成果を市の広報やメディアの活用、市原ケーブルテレビ、伝心柱、地域新聞で取り上げていただき現況を見ていただく。参加者の口コミや広報の成果がイベントの参加者につながっている。これまでと違った活動家の参加者が多く独自に整備が増えている大きな力になっている。</p> <p>◎内田の森の活動が東邦大学や城西国際大学の自然と生き物の保護研究の対象地として取り上げられ新年度から活動が進められる。</p> <p>◎今年度も千葉県森林課や、ちば里山センターが開催したチェンソーの専門的な技術のスキルアップの研修地として米沢の森が使用された。県内外から多くの参加があり、森の広さや景観の良さは他では味わえないと好評を得た。これまで以上の評価が得られた米沢の森多様な利活用につながり会員も大きな励みとなっている。が多くの人に知られる結果となった。</p> <p>◎その他にも遊歩道づくり・森づくりの整備機器、刈り払い機、チェンソーの安全研修の体験場、谷津田の生き物の保護整備と水路の改修・有機米づくりの体験等々、米沢の森活動が多くの人に知られてきた。</p>
<p>ウ 専門家、地元市町村、住民等の協力が得られたか</p>	<p>◎市原市の花プロジェクトに連携した米沢の森花立野広場(山桜と菜の花観桜会場)は約2haの癒しの里山となった。</p> <p>花プロジェクトでは参加者に菜の花の種まきに参加していただき、花見列車小湊鐵道の無料乗車券が配られた。</p> <p>◎市原市のアートミックスとの連携協働で地域の活性化対策に貢献できた。</p> <p>◎農業関係者との連携・農林業振興課、農業委員会・農協共済・有機栽培の農家・野菜直売所・朝採り新鮮野菜朝市直売所</p> <p>◎県森林課・ちば里山センター・森林研究センター・森林組合</p> <p>◎市原市の環境管理課の広葉樹の森づくり</p> <p>◎地元牛久小学校(内田小学校と統合した)仲良し遠足の実施(令和4年5月6日予定)</p> <p>◎山歩き同好会(ヤママップ)災害ボランティアからの活動支援</p> <p>◎市原市の空き家対策と移住者の誘致活動支援</p> <p>◎市原市農林業振興課、環境整備課の災害補助事業からの整備活動支援</p> <p>◎農道の復旧で今年度も市原市南部土木課の保守管理支援。</p> <p>◎農業委員会による耕作放棄地の再生利活用と助成金活用支援</p> <p>◎農業者からの農機具の中古品の提供や使用・修理の指導</p> <p>◎造園業からの苗木の植栽指導や、ちば桜の会からの苗木の寄付</p> <p>◎東邦大学、城西国際大学の谷津田の生物調査や保全整備・保護活動について</p>

	<p>て連携協働する。</p> <p>◎その他多くの団体等との連携ができた。</p>
エ 事業計画は実現可能な方法、手段であったか	<p>◎計画の実施状況 災害や害獣対策について情報交換をする中で計画の実現を図ってきた。コロナウイルス感染症でイベント活動が出来ない中会員の相互活動支援を実施して知識と技能交流を図った。</p> <p>◎行政や地域の専門知識を取り入れ持続可能な将来活動目標が出来上がってきた。</p> <p>◎癒しの森づくりは目標が大きすぎるくらいだが夢が広がり実現可能になると信じている。</p>
オ 収支計画は、妥当であったか	<p>◎計画に合わせた予算の実行に努めているが人的な整備活動に無理を感じたときに重機整備に変えることが発生し収支の調整も必要となった。自然災害や害獣対策、コロナ感染症により活動の内容を変えて費用執行の変更をおこなった。</p> <p>特に自然災害の場合は復旧作業に人手と費用が掛かり、専門家の力や業者委託も成果の実現には欠かせなかった。</p> <p>◎市原市の関係各課に相談し補助金や助成金の活用と併せて計画を成果に繋げてきた。</p>
カ 事業目的(目標)に対する達成度はどうだったか	<p>◎自然の整備保全活動の達成度は70パーセントくらい。</p> <p>今年度はまだ、大きな自然災害の被害が残っており復旧が十分ではなかったため、整備保全には人手も経費もかかってしまった。</p> <p>目標にしている耕作予定地の30パーセントが準備段階の作業しかできなかった。しかし、目先の量や質は低くても長期的に見ていくと目標達成度は高くなっていると思っている。</p>
キ 活動成果を今後の活動(事業の継続や発展など)にどのように活用していくのか	<p>◎せっかく準備段階まで整備したので、引き続き目標達成を目指したい。</p> <p>◎今年度発生した諸課題について、地元の方々とよく話し合い力を合わせて連携できるよう努力したい。</p> <p>◎来年度は絶滅危惧種保護にも力を入れたい。</p> <p>◎今年度に入り、市原市農林業環境整備課による大木谷津水路復旧工事がスタートしたので大いに活用して、豊かな自然環境と景観を再生し多様な活用を目指す。</p>

令和3年度 収支決算書

区 分		決算額	内 訳
収 入 の 部	事業助成金	1,389,000	ちば環境財団・市原市
	災害復活助成金	500,000	(第3次)【災害復興活動支援助成】
	補助金	485,000	市原市
	寄付金	81,615	スーパーT マート、ボーイスカウト
	イベント参加費	11,110	参加費
	会費	30,000	会員会費 @1,000×30
	総 額	2,496,725	
支 出 の 部	燃料費	200,481	明細別紙
	消耗品	595,990	
	使用賃借料	844,400	
	印刷費	88,000	
	事務用品	4,527	
	交通費	1,100	
	備品購入費	60,000	
	謝金	90,000	
	通信費	2,892	
	租税公課	30,900	
	保険料	50,320	
	会費	3,000	
	災害復活費	525,115	
	総 額	2,496,725	